2023年８月１日　神戸新聞６面

自動車部品メーカー「カネミツ」 女性取締役で活躍する山川清日さん

掃除、お茶出し 違和感抱いた。

国際的な競争力を維持するため女性役員の割合を増やすことが企業に求められる中、兵庫県内の上場企業で取締役として活躍し、海外子会社の社長も務める女性がいる。東京証券取引所スタンダード市場上場の自動車部品メーカー、カネミツ（明石市）の山川清日さん(43)だ。（石川　翠）

山川さんは2021年に取締役に就いた。タイの子会社社長も務めている。

学生時代、留学先のタイに現地法人があり、カネミツを知った。本社が出身地の明石にあると分かり07年に就職。アットホームな雰囲気に引かれた一方、新聞を読む男性社員の傍らでデスク掃除をしたり、お茶出しをしたりする女性社員の様子を見て、「昭和な会社だな」と思ったという。

ただ、人材の活用では「性別や年齢、国籍にかかわらず適性を見ている。男女に関係なく職務を担ってもらう」という同社の金光俊明社長(63)の言葉に、変化の予感を抱いた。自身の経験を生かせるタイへの出向を希望すると、商談や社内会議などで社長に同行して幅広く学ぶ機会を得た。

入社翌年の08年、初めてタイへ出向。そこで「女性スタッフが部門代表として活動報告をしている姿に衝撃を受けた」。他社も含めてタイでは通常の光景だが、日本人はほとんど男性駐在員が担っている。両国の違いが強く印象に残った。

帰国して、13年に長男を出産。復職後、海外事業統括室長に就き、管理職となった。責任は増したが、出社時間の融通が利き、子育てと両立できた。ただ朝一番の会議はどうしても遅れざるを得ず、早々と集まる男性管理職がうらやましかった。

16年に36歳で執行役員となる。身近に35歳で取締役になった男性上司もおり、自身も周囲にもすんなり受け入れられたという。女性活躍に取り組み、自らの経験から休暇や勤務形態などを見直し、キャリアアップ研修も導入した。

女性は、出産などでキャリアが一時中断することもあるため、海外研修や赴任を優先させる方針を決めた。「全体を通して男女差なくキャリアアップを図れる」と山川さん。現在も20代の女性が出向中だ。

19年にはタイの子会社の社長に就いた。当時5歳の長男を連れて赴任。ベビーシッターを頼み、工場での用事や会議などは午前中に済ませ、午後は在宅勤務にするなど、やりくりした。

山川さんは、女性役員の在り方について「海外をもっと見るべき」と話す。「性別による固定観念からそれぞれの能力を生かし切れていないかもしれないし、古い体質で就活生を逃しているかもしれない」

女性活躍に一定のめどが付き、22年度からは性別に限らず、国籍など多様な背景の社員が働きやすい職場環境を目指す「ダイバーシティ推進」に段階を進めた。ガソリン車から電気自動車（EV）へのシフトが進む中、BtoC（消費者向け）の商品展開も検討する。「視野を広げるのにも多様な人材が関わることが大事です」と力を込めた。

出産でキャリア一時中断に配慮 海外研修や赴任を優先

カネミツの生え抜き社員として経験を積み、子会社社長に抜てきされた山川清日さん(左)。右はカネミツの金光俊明社長＝明石市大蔵本町(撮影・小林良多)

※ホームページへの掲載開始日：2023年８月１日
本記事は神戸新聞社の使用許諾を得て掲載しております。
株式会社カネミツ